

第3回 热海市観光戦略会議 委員意見への対応

論点	発言者	発言要旨	対応
計画書の構成	齊藤座長	<ul style="list-style-type: none"> 構成(基本理念→目指すべき姿→目標→VICEモデル)では流れが不明瞭に感じる。 初めて資料を読む方にとっては、「目指すべき姿」→「計画コンセプト」→「重点テーマ」→「目標・VICEモデル」の順番が理解しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基本理念」→「目指すべき姿」→「計画コンセプト」→「重点テーマ」→「戦略方針・体系図」→「目標・VICEモデル」に組替。
目指すべき姿について	齊藤座長	<ul style="list-style-type: none"> 「目指すべき姿」の表現について、「基盤」という言葉に違和感を感じる。 初めは「基盤」が制度や仕組みの整備を指す印象を受けたが、計画全体を通して「基盤」は温泉リゾートへの転換の第一歩を指していると気づいた。 そのため、「基盤」よりも「基礎」や「礎(いしづえ)」の方が適切と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基盤」を「基礎」に修正
	内田委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在の文言(「熱海が将来にわたり選ばれつづける温泉リゾートとなるための確かな基盤を築きます。」)は動詞表現であり、「こうなりたい」という意思表明の形となっている。 例えば、「熱海が将来にわたり選ばれつづける、確かな基礎が築かれた温泉リゾート」という名詞形にすることで、「目指すべき姿」としてより整理された印象になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現に違和感を与えるため、「目指すべき姿」を「目指すべき方向性」に修正。
計画の内容	野中委員	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生に関して、熱海市には約1,400人(人口の約5%)の外国籍住民が暮らし、その85%が生産年齢人口として地域産業を支えている。 外国籍住民の多くはアジア圏出身で、特にネパール・ベトナムが多い。市内では生活面で孤立しやすい課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> C(地域)の基本的な考え方に関する文言を追加。 <p>「観光産業をはじめ地域を支える担い手として外国籍住民の存在が重要性を増す一方、生活面や地域とのつながりにおいて孤立しやすい課題も見られます。観光の恩恵を地域に還元し、国籍や文化の違いを超えて、市民が安心して暮らせる環境を整えることが重要です。」</p>

論点	発言者	発言要旨	対応
	溝口委員	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド対応は喫緊の課題であり、旅行者受け入れ態勢、市民との共生、多文化理解など多面的な対応が必要。 人材不足は深刻であり、採用支援・定着支援・コミュニケーション改善など包括的な人材対策が求められる。 	同上
	梅川委員	<ul style="list-style-type: none"> 世界のリゾート都市には象徴的な「舞台装置（プロムナード、景観軸）」が存在しており、熱海も同様の都市価値創出が必要。 計画は整理されコンパクトでわかりやすいが、そこに「国際視点」を加えることで、より未来への期待と夢を持てる内容になる。 	<ul style="list-style-type: none"> E(環境)の基本的な考え方に関する文言を追加。 <p>「世界のリゾート都市に見られるように、温泉や景観、文化資産を生かした象徴的な景観形成や空間づくりに取り組むことで、国際的な視点からも評価される都市価値の創出を目指します。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略的方向性のタイトル及び内容を修正。